

ほくたち・わたしたちの



「勉強」と「仕事」はどこでつながるのか、というテーマを考へ始めてほしいというわけで、『16歳の教科書2』を紹介しているこのコーナー。最後の授業である6限目に登場して頂くのが、占星術研究家の鏡リユウジさんだ。誰だって大小さまざまな悩みを抱えている。勉強はもちろん、将来の仕事、友人関係、そして恋愛と、悩みのタネは尽きない。「クールな科学」と「ウェットな占い」をキーワードに悩みとの上手な付き合い方を指南してくれる。占いの意外な一面も見えてくるはずだ。

●「クールな科学」と「ウェットな占い」

僕の肩書は「占星術研究家」。わかりやすくいうと、占いの師です。みんなも星占いは知ってるよね？僕のとっている占星術というのは、星占いの根っこにあるもの。そしてもう少し専門的で詳しいものだと考えて下さい。占いという以外にもあやしい。なぜか？当たり前ですが、占いには「科学的な裏づけ」なんてありません。「迷信だ」と言われたらそれまでの話なんです。だけど日常生活の中にはたくさん「科学的じゃないもの」が潜んでいます。

この「科学的かどうか」という問題は非常に大切ですが、このことを考えるとき、まずは自分を観察者として置き、個人的な感情などカウントしない。客観的に、ただただ事実だけを積み上げる。とてもクールな態度ですね。これが「クールな科学」です。

それに対し、占いは客観よりも主観を大事にします。個人の持つ心、体験、そして感情。こうしたウェットなものを重視するのが占いです。占いですべての「な

ぜ？」が解決されるわけではありませんが、人生のあらゆる場面で湧き上がってくる「なぜ？」を別の角度から考えるヒントになることは確かです。

●心のモヤモヤをキープしよう

「悩み」というテーマについて、占いの視点から考えてみましょう。16歳というと、将来に対して漠然とした不安を抱いたり、恋愛や勉強、友人関係のモヤモヤした悩みを抱えたりしている人は多いと思う。

そのモヤモヤを解消するには、どうすればいいか？僕からのアドバイスはひとつ。「心のモヤモヤは大人になっても解消できない」という事実を知り、受け入れることです。そう、大人だって悩んでいるんだよ。どんなに立派に見える大人だって人生の「答え」なんて知らない。

僕はこう考えるようにしています。モヤモヤがあった方が人生はおもしろい。例えば、君が男の子だとして、バレンタインデーの日に女の子からチョココレートを1枚ももらえなかったとします。そりゃあ、がっかりするかもしれない。でも、ここで考えて欲しいのは、「なぜ、がっかりするのか？」ということです。がっかりした理由は簡単です。それは、「誰かからチョココレートをもらえる可能性があったから」。もし、あなたが「どうせ僕にチョココレートをくれる女の子なんていないんだ」とすっかり自分をあきらめていたら、がっかりすることもありません。がっかりするということ、悩みがあるということは、自分に可能性がある証拠なんです。いちばん良くないのは、「どうせ僕は」とあきらめてしまふこと。希望や可能性を自分の手で捨ててしまうことです。

●占いを通じて「他者」を理解する

占星術は古代バビロニアの時代から連続と続く理論で、そこには「なるほど」と唸られるようなデータが

あり、人類の知恵が詰まっています。要するに、人間を経験的に分類・分析したものが占いなんです。長い歴史を持つ良くできた占いというのは、人間の代表的な思考パターンが標本箱みたいなかたちで勢ぞろいしているんです。

占星術は、現代の僕らがビックリするような精度で、人の性格や考え方の傾向などを分析して、見事にパターン化しています。そこで、ぜひ「自分以外の11星座」もしっかり見るようにしてほしいですね。それぞれどんな特徴があり、どんな長所と短所があるのかチェックしてほしい。

例えば、牡牛座の人が必ず牡牛座の性格になるとは限りません。でも、自分とは違った考え方があり、別の価値観があることをスムーズに受け入れやすくなります。他者への理解も深まるし、たくさんの方の視点でものごとを考へることが出来ます。

大事なのは「自分とは異なる価値観がある」ことを知り、それを無下に否定せず、冷静に受け入れることです。

この職業を探せ！

前号の正解は、速記者でした。

22 教室に貼ってある「13歳のハローワークマップ」の中から、次のヒントに合う職業を探してね。

ヒント1 高齢者や身体障害者など、介護を必要としている人たちの生活を支援する。

ヒント2 洗濯、掃除、買い物など、要介護者が日常生活に出来ないことを代行する。

ヒント3 ひとり暮らしで寂しい思いをしている高齢者の話し相手をしたり、要介護者を持つ家族の相談を受けるといった精神面のサポートを行う。

(参考：13歳のハローワーク公式サイト)

3つポーンぶんぽん

普段、紙を切るときははさみを使うことが多いですね。でも、まっすぐに切ったり、新聞や雑誌の記事を切り抜いたりするにはカッターナイフが便利です。

カッターナイフといえば、使っていて切れ味が悪くなつた刃の先を折り、よく切れる刃先ですぐに次の作業ができるタイプのものを思い浮かべますね。じつはこれ、日本人のアイデアだそうなんです。すごいですね。

カッターナイフには種類がいろいろあります。今回は、お家にあると便利なものを紹介します。

【スライドカッター】

紙を直線に切るときにとっても便利です。定規やマツトが要りません。これ一つで作業ができます。角度の線が示されているので斜め切りも簡単に出来ます。ただし、製品自体が大きいので持ち運びには向きません。

【円きりカッター】

紙を丸く切るのにとっても便利です。コンパスで円を書くようにして紙を切ります。円の大きさも調節できます。円の中心に針の穴があくのがちよつと気になります。中心の穴があかないタイプもあります。

【スクラップ用カッター】
カッターの先が自由に動いて切りたい物の形に合わせて切れます。刃先は、紙が一枚だけ切れるようになっているのでマットも要りません。

ところで、普通のカッターで厚手の紙などを上手に切る方法を知っていますか？カッターをなるべく斜めに切ること、最後に刃を替えることです。これは昔、鮮やかな手つきで作業をしていた壁紙の職人さんに聞いた話。やってみてください。カッターナイフは正しい使い方をして、安全に使いましょ。



(手島)